

新収蔵品紹介



亀山焼 壺

鎌倉時代

高さ35.5cm 口径21.5cm

亀山焼は倉敷市玉島八島から同市玉島陶(すえ)一帯を中心に、鎌倉時代初期から室町時代初期ごろまで生産された陶器である。古代に玉島陶窯跡群で焼かれた須恵器の系統をひく陶器で、主に壺・大甕・播鉢などが作られた。色は灰色を呈し、壺や甕に格子目のたき目をつけるところは須恵器と共通するが、内面の同心円のたき目が消されている点や一般に軟質である点が特徴とされる。県南を中心に瀬戸内の中世遺跡から多く出土しており、また京都でも出土しているが、室町時代初期頃に備前焼に押されて廃窯したとみられている。

この壺は表面の3分の1ほどに付着した牡蠣が処理されずにそのまま残されており、海揚がりであることがわかるが、その場所は不明である。底部に焼割れがあるほかには欠損はなく、焼きもしっかりしており、稀にみる優品である。



彩色備前 西行法師

江戸時代

高さ20.5cm

彩色備前は色絵備前ともいい、低火度で素焼きをしたあと、胡粉で地塗りをし、その上に絵の具で彩色したものであり、江戸時代中期頃から、他窯の施釉陶磁器におされていた備前焼が桃山時代の全盛を取り戻そうとはじめてたものの一つである。作品は主として型作りの置物類で、三十六歌仙や神馬・鶏などが多い。

この西行法師像は、作者や制作年代は不詳であるが、彩色備前のなかでは比較的古い時期に属する優品であり、墨染めの衣には黒漆を用いている。

特別展

日本の刀—その美と変遷

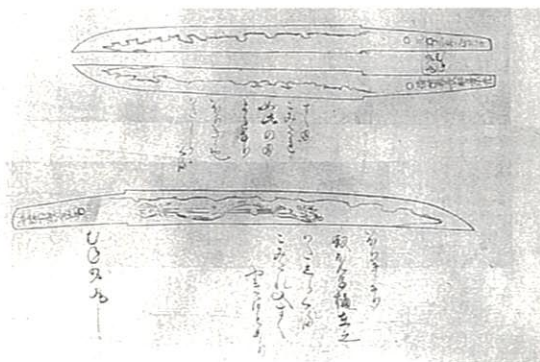
—備前刀・備中刀を中心として—

平成5. 1. 30~2. 28

今日、一般に日本刀と呼ばれているのは、鎗と反りをもつ洗練された形姿の彎刀であるが、その形姿と独特の鍛練法が完成したのは、平安時代後期頃といわれる。鉄の芸術品ともいわれ、武器としてだけでなく美術品としても優れた日本刀のうち、史上最高のものが作られたのは、同末期から鎌倉時代にかけてであった。それはあたかも武士が日本の歴史の表舞台に登場してきたときにあたる。

日本の刀剣史のうえでは、独特の鍛練法と形姿をもつ日本刀が完成した平安時代後期から安土桃山時代までに作られた刀剣を古刀、それ以前の上古刀、江戸時代のもを新刀と呼んで区別している。さらに新刀のうち江戸時代末期のもを新々刀、明治以後に作られたものを現代刀と呼んでいる。この永い刀剣史のなかで、備前・備中は古刀時代には日本最大の刀剣制作地であり、数多くの名工を輩出した。国宝や重要文化財に指定されている刀剣およそ800口のうち、5割近くは備前刀・備中刀が占めているほどである。

この特別展では、上古刀時代については、弥生時代の遺跡から出土した石剣、銅剣・銅矛・銅戈、鉄剣をはじめ、古墳出土の鉄剣、直刀、頭椎大刀、環頭大刀、奈良時代の直刀のほか、平安時代になって彎刀が成立してくる過程を県内外の資料によって展示した。古刀時代については、備前刀・備中刀の日本刀剣史上に占める位置の大きさに鑑み、備前刀・備中刀を中心に各流派の代表的な作品を集め、その変遷や美術的価値について解説、展示した。そのうち、戦国時代のいわゆる末備前については備前・備中の著名な武将の注文打ちを中心に展示した。新刀・新々刀時代は備前の祐定一統、備中の国重一統の代表作のほか、逸見東洋や備中千屋（新見市）で作刀した藤原直胤の作品を取り上げた。このほか、工芸技術の粋を集めた各種刀剣外装や刀剣に係わ



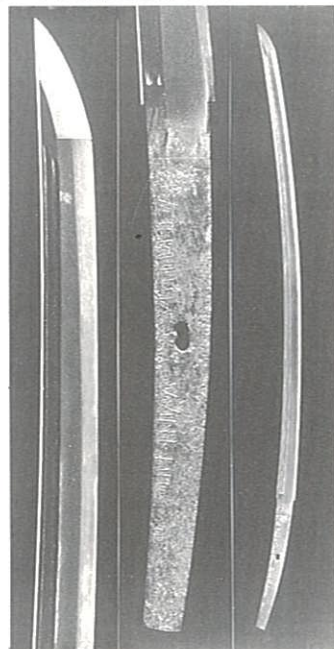
重文 紙本墨書 刀絵図 防府毛利報公会

る絵画および文献等も収集、展示した。なかでも、日本刀の横綱といわれる名物大包平、奥平家伝来の一文字、山内家伝来の一国兼光等の名刀や研磨後初めて公開した大太刀法光は入館者の注目をあつめた。

展示期間中の入館者は県内外からおおよそ1万3,000人を数えた。なかには栃木・東京や沖縄から来られた方もあり、名古屋から土曜日ごとに3回通って来られた方もあった。また女性の入館者もおおよそ3割近くを占めていた。数時間にわたって熱心に鑑賞される方がほとんどで、刀剣に対する関心の深さを痛感した。

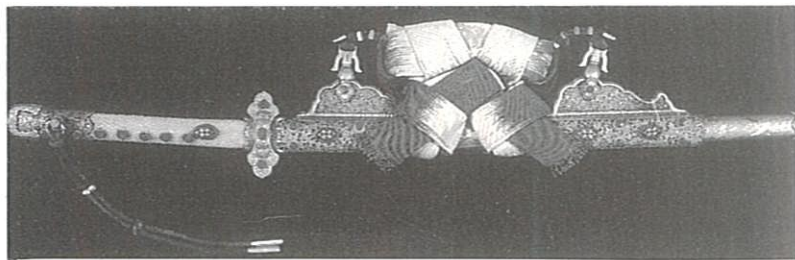
会期中の2月6日(土)には、東京国立博物館工芸課長小笠原信夫氏による「日本刀の美と備前鍛冶」と題する講演会を開催、200名をこえる聴講者を数えた。

波に雲龍図鐙
中川勝継作
個人蔵



重文 太刀 銘備中国住守次作
東京国立博物館

塵地鳳凰文螺鈿枝菊透彫嵌玉
金荘飾剣 個人蔵



企画展

岡山の絵馬 I

平成 4 . 10. 9 ~ 11. 23

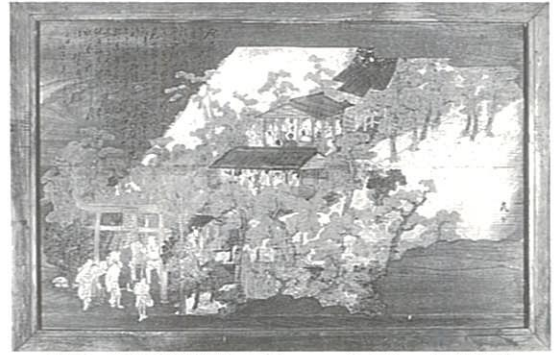
絵馬は、神社・仏閣に祈願や感謝の意を込めて奉納された扁額の総称である。今年度本館では、県下で初めて本格的な絵馬展を企画し、「岡山の絵馬 I」として特に生業・風俗に関する絵馬に焦点を当てて展示構成した。絵馬の題材は、本来の馬図から武者絵・歌仙絵・動物・花鳥・山水図等と多様化していったが、今回テーマに選定した生業・風俗図は、絵馬の中では数少ない特異な分野の画材といえよう。出品点数は、県指定重要文化財2点を含む計47点、これらには、社寺参詣や祭礼の様子を描いたもの、商売繁盛・豊作・豊漁・航海の安全を祈願したもの、手習い事の技能向上や安産・悪疫退散を祈願したものなど、多彩な図柄の絵馬が含まれた。そこには、当時の人々の生活の様子や社会の情勢が如実に反映されており、多くの入館者の方々に興味深く展覧していただいた。

なお、来年度も企画展「岡山の絵馬 II」として著名な絵師が描いた美術的指向の強い絵馬を展覧する予定であり、併せて今後とも県下の絵馬所在調査に取り組みたいと考える。

主な展示資料

○ 岡山県指定重要文化財

- おかげ参りの図 文政13年(1830) 牛窓町 牛窓神社
- 伊勢参詣の図 文久2年(1862) 倉敷市 清田八幡神社
- 伊勢参詣の図 明治15年(1882) 矢掛町 矢掛神社
- 住吉神社境内の図 江戸時代中期 邑久町 若宮八幡宮
- 上野寛永寺境内の図 正徳6年(1716) 早島町 鶴崎神社
- 石清水八幡宮御行幸の図 慶応2年(1866) 早島町 鶴崎神社
- 祭礼の図 文久2年(1862) 岡山市 福岡神社
- 祭礼の図 明治時代 岡山市 葦守八幡宮
- 児島湾干潟漁業の図 寛政10年(1798) 岡山市 御前神社
- 廻船・尻海古景の図 天明5年(1785) 邑久町 若宮八幡宮



絵馬 悪疫退散祈願の図 和気町 松村神社

- 玉島港問屋繁栄の図 明治3年(1870) 倉敷市 羽黒神社
- 玉島港水門築造の図 明治2年(1869) 倉敷市 羽黒神社
- 福島港の図 明治41年(1908) 岡山市 住吉宮
- 廻船の図 天保6年(1835) 岡山市 栗村神社
- 廻船の図 江戸時代後期 岡山市 素盞鳴神社
- 御座船の図 寛延4年(1751) 岡山市 住吉宮
- 高瀬船の図 寛政9年(1797) 御津町 素盞鳴神社
- 朝鮮通信使の図 正徳4年(1714) 邑久町 若宮八幡宮
- 大丸呉服店の図 弘化4年(1847) 倉敷市 蓮合寺
- 洋服仕立屋の図 明治3年(1870) 岡山市 恩徳寺
- 裁縫仕立師弟の図 慶応3年(1867) 高梁市 八幡神社
- 裁縫・三絃手習の図 明治9年(1876) 高梁市 松連寺
- 裁縫所作業の図 明治12年(1879) 倉敷市 熊野神社
- 裁縫所作業の図 明治5年(1872) 岡山市 葦守八幡宮
- 裁縫所作業の図 明治31年(1898) 賀陽町 妙本寺
- 神社本殿建築板図 明治30年(1897) 鴨方町 真止戸山神社
- 初花 明治12年(1879) 富村 布施神社
- 銅板絵馬 承応3年(1654) 落合町 熊野神社齋宮
- 牛の図 明治28年(1895) 久世町 久世神社
- 耕作牛の図 慶応3年(1867) 加茂川町 火雷神社
- 悪疫退散祈願の図 明治12年(1879) 和気町 松村神社
- 子授け祈願の図 明治時代 岡山市 総社宮
- 安産祈願の図 大正元年(1912) 邑久町 稲荷神社
- 娘道成寺の図 文化5年(1808) 岡山市 吉備津神社
- 子供相撲の図 天保11年(1840) 岡山市 総社宮



伊勢参詣の図 矢掛町 矢掛神社

テーマ展

資料からみた

調理と食の歴史

7. 30～8. 30

平成4年度最初のテーマ展は、調理様式や食の歴史の変遷についてとりあげた。人間の生活の一番根源的な行為に、物を食べるということが上げられる。この展覧会は、われわれの祖先がどのようにして物を効率よく加工・保存し、食することに知恵をしばってきたかを、考古資料や文書・絵画を中心としてみたいこうとするものであった。なかでも考古資料が中心のため、小・中学生の皆さんにも興味をもってご覧いただくよう夏休みの時期に開催した。

内容は、「考古資料からみた調理の歴史」「文書・絵画からみた食事風景」の2つに分けて展示構成した。なかでも、縄文時代の人間が貯蔵した木の実の現存資料や、弥生期の煮炊き用の甕のすずの付着具合からかまどが築かれていった様子がうかがえる資料群などには、古代人の知恵が生々しく伝わってくるものがあつた。また、総社市南溝手遺跡の日本最古の靱痕を残す縄文土器など、新出土の資料を初公開したのも意義のある展示であつた。

主な展示資料

焼き石(神郷町野原遺跡出土)岡山県古代吉備文化財センター
縄文土器(岡山大学構内出土)

岡山大学埋蔵文化財研究センター
靱痕のついた土器片(総社市南溝手遺跡出土)

縄文後期末・縄文晩期 岡山県古代吉備文化財センター
石皿とすり石(倉敷市阿津走出遺跡出土) "

どんぐり・とちの実(山陽町南方前池遺跡出土)

山陽町教育委員会

炭化米(久米町領家遺跡出土)岡山県古代吉備文化財センター
エゴマ炭化土器(総社市南溝手遺跡出土) "

煮炊き用土器(岡山市上東遺跡・百間川遺跡出土) "

こしき(倉敷市菅生遺跡出土) "

土師器 かまど型模造品(笠岡市大飛島出土)

笠岡市郷土館

脚付土鍋(邑久町出土) 岡山県立博物館

土鍋(鴨方町沖の店遺跡出土) 鴨方町教育委員会

内耳鍋 " "

羽釜 " "

火きり棒と火きり板(福山市草戸千軒町遺跡出土)

広島県立歴史博物館

包丁・お玉じゃくし " "

吉備津神社文書 文明14年(1482) 岡山市 吉備津神社

一宮社法 室町時代 岡山市 吉備津彦神社

年々献立控 寛政11年(1799) 個人

テーマ展

渡来した美術工芸

9. 4～10. 4

日本が海に囲まれた島国であるという地理的条件から、みずから海外へ出かけることのできるひとはごく一部であつた。大方の人々は、渡来した人物・文物を通じ、異国への想像をめぐらし、憧れを抱いたにちがいない。そのような意味で、今日伝えられる渡来の美術・工芸品は、日本人と異国との数少ない接点の記録でもある。

瀬戸内海は古来より主要な交通路であつたことから、中国大陸・朝鮮半島の文物に接する機会も多かつた。勘合貿易や私貿易を通じて染織品、薬品、香料、絵画、陶磁器、貨幣など、また留学僧や外交使節によって絵画・工芸品や書籍など、多種多彩の品々が持ち込まれた。また、倭寇として恐れられた武装船が略奪したのもや秀吉の朝鮮出兵の際の収奪品と思われるものも伝えられている。

なかでも中国・朝鮮国内にはほとんど残っていない中世以前の仏教絵画が、日本国内、とくに瀬戸内海沿岸地域に多く伝えられている。宋代や高麗時代にまでさかのぼる仏教絵画は、今日、日本だけでなく彼の国々にとっても貴重な資料である。本展覧会では、持光寺(尾道市)の「千手観音像」、光明寺(尾道市)の「地藏菩薩十王像」などをはじめ、近隣諸国からも注目される仏画9点を陳列した。

また、鎖国の徹底した江戸時代に、唯一の正式な外交使節団として訪れた朝鮮通信使の関係資料も多数展示した。

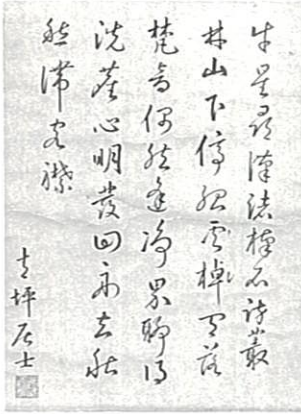


絹本淡彩
楊柳観音像
南宋時代
尾道市 光明寺

博物館講座

備前では牛窓の本蓮寺が、備後では鞆の福禅寺が使節一行の接待所にあてられていたことから、同寺には使節団員たちの残した書や、持参の品々が残されている。また、連島宝島寺の僧寂庵が通信使にあてた手紙（案文）は、数十年に一度来訪する異国の文化人に対する敬意にあふれたもの。ほかにも玉野市日比沖をゆく使節団の一行を描いた貴重な絵巻も展示した。

本展覧会では、奈良時代から江戸時代まで、様々な経緯で渡来した美術・工芸品を可能なかぎり集め、近隣諸国との交流史の一端にふれていただけるようにと配慮した。国際化の語られる今日、先人達が近隣諸国に対してどの様な態度をもって接してきたかを観ていただけたならば、これもまた意義あることと思われる。



朝鮮通信使詩書

正徳元年(1711)

牛窓町 本蓮寺

主な展示資料

◎ 重要文化財 ○ 県指定重要文化財

- 飛禽鏡（総社市宮山遺跡出土） 1面 岡山県立博物館
- ガラス小壺破片（大飛鳥祭祀遺跡出土） 2個 文化庁
- ◎銅製 五銖鈴 1口 尾道市 西国寺
- 湖州鏡（百間川原尾島遺跡出土） 1面
- 岡山県古代吉備文化財センター
- 青磁器破片（鹿久居千軒遺跡出土） 一括 岡山県立博物館
- 白磁碗（岡山市高島新屋敷出土） 1口 岡山県立博物館
- 絹本淡彩 楊柳観音像 1幅 尾道市 光明寺
- ◎孔雀文沈金経箱 1合 尾道市 浄土寺
- 中国古銭及び備前焼銭壺（備前市伊部出土） 一括
- 備前市教育委員会
- 垂飾付耳飾（八幡大塚古墳出土） 1対 文化庁
- ◎銅 鐘 1口 岡山市 西大寺観音院
- 高麗版一切経 13冊 岡山市 吉備津神社
- 絹本着色 千手観音像 1幅 尾道市 持光寺
- 絹本着色 地藏菩薩十王像 1幅 尾道市 光明寺
- 麻本白描 霊山会上図 1幅 岡山市 曹源寺
- 香炉・花瓶 各1 福山市 福禅寺
- 朝鮮通信使 詩書 3幅 牛窓町 本蓮寺
- 通信使宛書状案文 1通 倉敷市 宝島寺
- 朝鮮人来朝覚図巻 1巻 個人

博物館の普及活動の一環として、毎年実施している歴史講座「岡山県の歴史と文化」を、下記により開講した。例年好評を得ているが、今年度も募集人員（60名）を越える112名の応募をいただき、抽選により受講者を決定した。

前年度から実施した現地見学会では、梅雨の晴れ間の一日、月の輪資料館（柵原町）・三重塔で知られる長福寺（英田町）・本久寺（佐伯町）を訪れた。

学習内容と日程

テーマ	講師	開講日
岡山の獅子と狛犬	主 事 八田 眞	5月29日 (金)
岡山の河川交通史	学 芸 員 田村 啓介	6月5日 (金)
古川古松軒の地理学	学 芸 課 長 竹林 栄一	
文人画の世界	学 芸 員 守安 収	6月12日 (金)
現地見学会 (柵原・英田・佐伯町)	本館職員	
縄文時代の環境と生活	副 館 長 高橋 護	6月19日 (金)
岡山県の渡来遺物について	岡山県古代吉備文化財センター調査課 課長 正岡 睦夫	
地蔵のかたち	学 芸 員 中田利枝子	6月26日 (金)
備中高松城水攻め始末	総括学芸員 加原 耕作	



平成4年度 博物館講座より

平成4年度購入資料

- 古川古松軒筆 蝦夷松前風俗書 写本 1冊
江戸時代後期
- 絹本淡彩 花卉魚介図 浦上春琴筆 1幅
江戸時代後期
鎌倉時代初期
- 亀山焼 壺 1点
江戸時代前期
- 彩色備前 西行像 1点
江戸時代後期
- 彩色備前 鶏 1点
江戸時代
- 刀剣関係資料 一括 (10点39冊)
江戸時代
- 諸国刀匠系図・刀絵図 1帖・1冊
江戸時代
- 体験学習教材 兜 複製品 1頭

平成4年度寄贈資料

- 児島湾周辺地域での漁具および生活用具 一括
明石市 門前登美代
- 竹札 (百間川工事関係の人夫使用)
岡山市 小林 貞夫
- 御家中差物図 (池田家) ほか 一括
岡山市 鈴木 栄次
(敬称略)

以上、貴重な資料の寄贈を受けました。永く大切に保管するとともに、本館の展示・研究資料として有効に活用させていただきます。ここに御寄贈くださいました方々のご芳名を記入し、厚くお礼申し上げます。

平成5年度事業のお知らせ

○特別展「なりわいの知恵」(仮称)

平成5年10月～11月

私たちの祖先は、確かに豊かに食べ物を手にいれるため懸命に知恵をしばり、新しい技術を発明、発見し、積み重ねてきた。新しい技術の発明・発見は、概して命をかけた生き残りのための営みであったと思われるが、それは社会の技術水準を高め、社会変革の原動力になったと思われる。

この展覧会は、狩猟・農業・漁業・製塩業など人間生活のもっとも基本的な分野に目を向け、それぞれの分野で、いつ頃、どのような技術が発明されたのか、また、それによって人びとの生活がどのように変わったかなど、私たちの祖先のなりわいを支えた技術の歴史を、具体的に考えてみようとする試みである。

○テーマ展「金山寺」

平成5年4月～5月

岡山市金山寺にある銘金山金山寺は、報恩大師が天平勝

宝元年(749)に創建したと伝えられる備前の天台宗寺院第一の古刹である。この展覧会では、金山寺に伝わる仏像・絵画・古文書・絵図・工芸品など指定文化財を中心に展示して、金山寺の歴史を紹介する。

○テーマ展「渡来人と須恵器の成立」

平成5年7月～8月

吉備地方では、5世紀に入ると渡来人の生活した集落と考えられる遺跡がみられるようになり、朝鮮半島系の遺物を伴って発見される。これらの遺跡では、在地産の初期須恵器を伴っており、最初の須恵器の生産が渡来人たちによって開始された様子をよく物語っている。渡来人たちによって始められた生活様式は、旧来の生活様式を大きく変化させる契機となり、それ以降の日本の生活の基本となるものであった。

この展覧会では、渡来人によってもたらされた文化と、わが国の伝統的な文化の融合を通じて、新たな生活様式と文化が形成されるさまを展示する。

○企画展「岡山の絵馬Ⅱ」

平成6年1月～3月

絵馬は、神社仏閣に祈願のために奉納された扁額の総称である。本来は馬の絵が描かれたが、絵馬の奉納が普及するにつれて絵の題材は多様化していった。絵馬のなかには、一流の絵師に制作を依頼したものや、地元とゆかりの深い絵師が制作したものもあり、地方の美術活動の有様をうかがわせる資料ともなっている。昨年度開催した「岡山の絵馬Ⅰ」は生業風俗が中心であったが、今回は美術的指向の強い絵馬を中心に展示する。

○博物館講座「岡山県の歴史と文化」

平成5年5.28.～6.25

各金曜日の5日間

岡山県立博物館だより No.40

発行日 平成5年3月31日
発行者 岡山県立博物館
館長 橋本泰夫
岡山市後楽園1-5
☎(岡山)272-1149